

報告日 2019年 7月1日

会 派 名	民社友愛
報告者氏名	佐藤和典、相澤宗一
種 別	<input type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用 務	<労働政策フォーラム> 治療と仕事の両立支援
日 時	令和元年6月28日（金）
場 所 （会 場）	東京都千代田区 （ベルサール神保町アネックス）
調査項目等	
概 要	<p>○基調講演「仕事と治療の両立支援」；県立広島大学教授 木谷 宏氏</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 働き方改革と「治療と仕事の両立支援」</li> <li>2. 「治療と職業生活の両立支援に関するガイドライン」</li> <li>3. 両立支援における課題と対策</li> </ol> <p>○研究報告；労働政策研究・研修機構主任調査員 奥田栄二氏</p> <p>「『病気の治療と仕事の両立に関する実態調査』調査結果の概要」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業アンケート調査概要</li> <li>2. 個人web調査の概要</li> <li>3. まとめ—調査からの示唆</li> </ol> <p>○事例報告</p> <p>①「がんに負けるな～がんになっても、私の居場所はここだ。～」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 伊藤忠商事の働き方改革で目指すもの</li> <li>2. 生産性向上に向けた取り組み</li> <li>3. 産業医による社員意識調査</li> <li>4. がんと仕事の両立支援がもたらすもの</li> </ol> <p>②「ハローワーク飯田橋の取り組み事例～病院との連携支援の紹介を含めて～」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ハローワークによる長期療養者就職支援開始から現在まで～国の取り組みとして～</li> <li>2. どのような方が、治療と仕事の両立で課題を抱えているか？～相談に来る方の状況～</li> <li>3. 「長期療養者就職支援」の取り組みと特徴～一般の相談窓口と「がん患者さん専門の相談窓口」の違い～</li> <li>4. 医療機関（病院）との連携支援</li> </ol> <p>③「中小企業における両立支援」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 松下産業の取り組み</li> <li>2. 中小企業でもできること</li> </ol>

	<p>3. なぜ当社は治療・就労の両立を支援するのか</p> <p>○パネルディスカッション</p> <p>コーディネーター；県立広島大学教授 木谷 宏氏</p> <p>パネリスト；伊藤忠商事株式会社 西川大輔氏</p> <p>；ハローワーク飯田橋就職ナビゲーター 岡田 晃氏</p> <p>；松下産業ヒューマンリソースセンター長 齋藤朋子氏</p> <p>；労働政策研究・研修機構主任調査員 奥田栄二氏</p>
<p>所 感 等</p>	<p>【佐藤和典】</p> <p>定年延長や人材不足などにより、企業や労働者を取り巻く労働環境が大きく変化しています。そのことによって、職場環境の複雑化や労働者の高齢化などに伴う作業関連の疾患予防のための労働者の健康管理が大事になってくること、また、疾病をもつ労働者の治療（ライフ）と職業生活（ワーク）の両立のための支援や治療を受けながら就職活動する市民への支援策が課題となってきています。したがって、従業員が病気になっても働ける状態であれば働けるように、企業側がどのように配慮するかが鍵を握ると理解しました。会派で調査を続け一般質問につなげたいと考えます。</p> <p>【相澤宗一】</p> <p>働く者の中には介護や育児等の制約を持つ方と同様に、医療技術の進歩や高齢者の就業率の高まり等を背景として、病気を治療しながら仕事をしている方が増えています。</p> <p>2人に1人はがんに罹患する時代、企業としてもその方の能力を活かせるよう環境整備をすることが、発症していない人への不安払拭につながります。治療と仕事の両立に向け取り組む企業への支援について研究したいと思います。</p>

